

あたらしくはいった本 (令和2年6月 貸出開始資料から)

- 小説 おいしくて泣くとき(森沢明夫/著) 奈落で踊れ(月村了衛/著) 家族じまい(桜木紫乃/著) 不良(北野武/著) 生かさず、殺さず(久坂部羊/著) 縄紋(真梨幸子/著) じんかん(今村翔吾/著) 語らいサンドイッチ(谷瑞恵/著) ダブル・トライ(堂場瞬一/著) カインの傲慢(中山七里/著) ほたる茶屋(藤原緋沙子/著) きたきた捕物帖(宮部みゆき/著) ライフ・アフター・ライフ(ケイト・アトキンソン/著) アコーディオン弾きの息子(ベルナルド・アチャガ/著)
- 随筆・詩などの文学 芝居とその周辺(井上ひさし/著) 文豪の悪態(山口謠司/著) 夏井いつきの日々是「肯」日(夏井いつき/俳句・文) 谷崎潤一郎・川端康成(三島由紀夫/著)
- その他の本 10代から身につけたいギリギリな自分を助ける方法(井上祐紀/著) 高たんぱく質レシピ151(主婦の友社/編) 伝える仕事(池上彰/著) 鉄路の果てに(清水潔/著) 空撮九州(岩尾雄四郎/著) 徹底活用! バランスボール大全(菅原順二/監修)

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和2年	日	月	火	水	木	金	土
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23/30	24/31	25	26	27	28	29

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。



『おいしくて泣くとき』
森沢明夫/著
角川春樹事務所



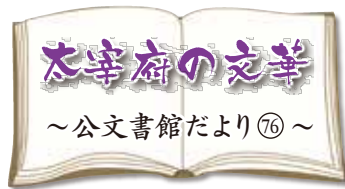
『ライフ・アフター・ライフ』
ケイト・アトキンソン/著
東京創元社



『奈落で踊れ』
月村了衛/著
朝日新聞出版

『純友追討記』と大宰府

10世紀半ばに起こった藤原純友の乱と大宰府との関わりといえば、すぐに純友による大宰府襲撃を思い浮かべる方も多いでしょう。この大宰府襲撃およびその後の博多津における合戦を比較的詳細に記録しているのが『純友追討記』(以下、『追討記』)という史料です。この『追討記』が、いつ、だれによって、何のために作られたのか、わがわがわからないこともあって、その記述を信用してよいかにしても評価が分かれてしまっています。ただ、いつ作られたかについては、『追討記』が『扶桑略記』という書物に引用されていることから、『扶桑略記』が成立したとされる11世紀末から12世紀初頭以前と考えられます。また、何のために作られたかについては、『追討記』にしか登場しない讃岐介藤原国風という人物が、讃岐国、伊予国における純友一党との合戦で活躍し、その追討に大きな功績があったことを強調するためだった、とする興味深い説が出されています。



～公文書館だより⑩～

こうした考え方を参考にしても、もう一度『追討記』を読み直してみると違った見方もできるのではないかと思います。それは冒頭に述べた大宰府襲撃と博多津合戦についてです。『追討記』には、大宰府が焼き討ちされたことと記されていますが、このこと自体は『本朝世紀』という別の書物にもみえ、また大宰府跡の発掘調査によって、政庁跡第三期造営の際の整地層から焼土が確認されていることから、事実だと考えられます。博多津における合戦においては、追捕使等による純友追討のさまが記されていますが、ことに追捕使主典であった大蔵春実の活躍はきわめて具体的に語られており、合戦日記か、あるいは春実の勲功申請などに拠った可能性があるのでしょう。大蔵氏はこのうち、大宰府府官となり、11世紀初めの刀伊の入寇の際に活躍した大蔵種材は、この春実の末裔とされています。また、先に「比較的詳細に」と述べました。『追討記』そのものは全体で800字にも満たない記録ですが、大宰府襲撃・博多津合戦の叙述に、そのうちの約4分の1を割いていることもみのがせません。

このようにみて、『追討記』は、藤原純友の乱制圧において大蔵春実が果たした役割の大きさを強調する目的で作られたと考えるのは、地元びいきが過ぎるでしょうか。

公文書館 重松 敏彦